

令和 7 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000054		
法人名	株式会社 メイト		
事業所名	ホームとよまね2号館		
所在地	岩手県下閉伊郡山田町豊間根2-111-3		
自己評価作成日	令和7年10月11日	評価結果市町村受理日	令和8年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様本位の生活実現を目標に、自分らしく生活できるようスタッフ一同サポートしています。利用者様のペースに合わせ支援することをモットーとしております。令和5年5月にコロナが、5類感染症に移行された事により、感染対策にも気をつけながら、地域との交流を進めています。地域の保育園、小学校、中学校との交流、カラオケ同好会の来訪を行い、地域の方々との交流を行っております。又2か月に一度、ボランティア訪問あり、歌と踊りを披露して頂いております。職員は、行事等を積極的に企画し、敬老会、運動会、ドライブ等の外出を行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年11月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げる「安心と尊厳のある自立生活を支援すること・高齢者が生きていることを実感でき地域福祉の一翼を担うこと」を実現するために、利用者のできることを大切にしている。具体的に何が出来るのかを職員全体で検討し、能力に応じた役割を気持ちよく担ってもらえるよう工夫している。事業所には一日を通して利用者の声が響き、食事の準備や片付け、洗濯物干しやモップがけなどにいそむ姿が見られる。利用者が役割を持ち、自分のことは自分でできることを目指し、できないところを職員がサポートし皆で助け合っている。地域福祉の一翼を担う地域の方も集える事業所を目指し、ボランティアの来所、こども園、小中学校との交流など積極的に地域と関わっている。踊りや歌を披露する一座やカラオケ同好会が来訪する際には近所の方々も来所し利用者と一緒に楽しむなど、地域に開かれた事業所になっている。地元のお祭りには虎舞が事業所のホールで披露されている。米や野菜等の地元食材をおいしく食べていただくことを大切にしており、季節の干し柿つくりや栗の皮むきなどを利用者と共にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の目に見える所に理念を掲示している。又、毎月の職員会議の時に唱和し、共有している。理念に関する研修会を実施し理解を深めている。	開設時に掲げた理念をホール内に掲示し、職員会議で唱和し確認している。年に1、2回理念の言葉の意味について研修を行い、職員の考えや感想を話し合い共有を図っている。利用者が役割を持って暮らすことや、自分のことは自分で出来ることを念頭に日々支援している。地域福祉の一翼を担うことも大切にし、地域の方も集える事業所を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナにより、一時中止していましたが、令和5年5月よりカラオケ同好会の来訪、中学校、こども園との交流、ボランティアの訪問を再開し、交流を続けている。	日本舞踊や唄、カラオケ等のボランティアが2か月に1回位来所され、その時は地域の方にも声掛けし楽しい交流の時間を過ごしている。小中学校の福祉体験を受け入れたり、こども園の運動会・卒園式等の総練習の場に招かれ利用者が涙を流して感動したりと交流が活発である。地元のお祭りの際に虎舞が来訪し、ホールで踊りを披露し利用者は大喜びであった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバンメイト事業に積極的に参加し、認知症サポーター養成研修に、スタッフの派遣も行っている。地域の中で、認知症を対象とした施設として知ってもらうよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	様々な機関の代表が推進委員として参加され、いただいた意見の中で、すぐにできる事から取り組みサービス向上に努めている。	会議の委員は自治会の代表、民生委員のほか近隣住民やこども園長など地域の方々が多い構成となっている。事業所のホールで開催し、利用者の様子を見ていただいている。地元の方や同町内の他のグループホームとの情報交換も活発に行われ、日々の活動の参考としている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や地域ケア会議などで情報交換を行いながら、協力関係の構築に努めている。	町で行われる会議や研修に出席したり、日常的に相談できる関係づくりに努めている。制度改正や災害時の避難等についても適宜情報提供がある。生活保護を受給している方もおり、ケースワーカーが年に1回来所する。町からの家賃補助の手続きのため2か月に1回書類と領収書を持参し手続きを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	介護保険の基準において禁止の対象となる具体的行為を研修し、身体拘束をしないケアに努めている。身体拘束権利擁護委員会を設置し、拘束のないケアについて強化し実践している。廃止宣言をしており、拘束のないケアを実践している。	同一法人が運営する「ホーム とよまね」と合同で3か月に1回身体拘束権利擁護委員会を開催し、ヒヤリハット事例の検証、検討を行っている。夜間の転倒防止のためセンサーを活用している利用者もいる。スピーチロックの有無については毎日チェックを行い皆で検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法で定義されている5つの虐待に関して確認し、防止に努めている。身体拘束権利擁護委員会において、声掛けの言葉にも注意をするよう研修し、実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内職員研修を実施し、全員で学ぶ機会を設けている。日常生活自立支援事業や成年後見制度の基本的知識を習得し、説明や必要性の判断ができるよう、外部研修参加も支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	分かりやすい言葉で、説明を行い、契約内容を確認していただいている。契約時に予想される生活上の事や、将来の退居についても説明している。		

令和 7 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に管理者との面談のほか、利用者の担当職員を設けることにより、気軽にコミュニケーションがとれるよう心掛けている。運営推進会議への出席もお願いしている。	利用者と1対1で関わる時間、特に入浴介助時の会話を大切に、困っていることや希望を聞いている。家族とは面会や電話にて利用者の様子を伝えつつ要望等を聞き取ろうとしている。内容は運営に関わることはほとんどなく、利用者の普段の様子についての問いかけが多い。運営推進会議に家族の参加をお願いしているが、タイミングが合わず欠席となることが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議とカンファレンスで発言の機会を設けている。毎日の申し送りや連絡ノートを活用し、より多く職員の意見を聞きだすよう努めている。	職員会議等で、便座のふたの取り扱いや修繕箇所、シフトなどについて意見が出され、対応している。良いことはすぐやろうという雰囲気があり話しやすい環境となっている。職員の悩みや勤務についての希望等は管理者が聞き取り上司に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格に応じた給与・待遇ができるよう職場環境・条件を整備し、実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修とともに、外部研修の機会を均等に設けるように努めている。資格試験時の勤務優遇など、配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同町のグループホームの運営推進会議には、お互いに参加し、情報交換をしている。グループホーム協会の定例会、研修会にも参加し、情報交換をしている。		

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメントシートを活用しながら、ご本人の思いを傾聴し、思いを受け入れ、行動する関係作りに努めている。できる事は継続していただき、安心ある生活が提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメントシートを活用しながら、ご家族の思いの聞き取りを行っている。その後の面会時にも不安や要望を聞き、担当職員を設けるなどし、円滑にコミュニケーションを図れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の思いを傾聴し、必要としている支援を見極め、その都度柔軟に対応するよう努めている。特に生活歴や趣味・嗜好・生活習慣等を伺い、提案に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活全般を利用者と一緒に行い、様々な生活の場面を一緒に過ごせるようにしている。調理、縫物など個々の能力に合わせて家事などの手伝いを促し、利用者のペースに職員が合わせて、安心して生活していただけるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナが5類移行後、条件付きで面会が可能となり、面談出来る時はいただいている。職員からも様子を伝え、支援経過を送付し、日々の暮らしを知っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔のアルバムを用いたり、家族関係の思い出話を聞いたり、面接に来られた方との交流等、支援に努めている。	馴染みの人や場所の情報は、本人・家族等から聴いたり、利用者と一緒にアルバムを見ながら問いかける形で収集している。コロナ感染以降家族との外出が減っている。利用者1名は遠方の家族が帰ってきた時に外泊をしている。近くのおでんせ市に出かけ昔食べ慣れたお団子やドーナツを買ってくるのを楽しみにしている。通院時やサロンで開催した映画会で、知人に会い大変喜んで利用している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	グループ作りを行い、良い関係が保たれる利用者同士を近くの席に配置するなど、関わり合えるよう努めている。又、必要に応じて職員が会話の橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院時、退所後もご家族が相談できるよう努めている。情報提供や他施設への連絡調整も必要に応じて行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のお話をする中で希望や意向を聞き出し、日誌に記入し情報共有に努めている。実現できることや、実現に向けた支援に努めている。	「ここに入って幸せだ、ご飯が美味しい、楽しい」などの利用者のつぶやきを拾いながら職員間で共有している。食べたい物を話すことは少ないが、職員は表情などから推察し好きそうな物を調理している。耳の遠い方には筆談でやり取りしたり、言葉で思いを表出できない方には表情や雰囲気を見ながら思いを推し測っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートを用いて少しずつ、ご本人や家族、面会に来られる方々から情報収集に努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の日誌等の記録をもとに、その日の暮らし方や、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回の職員会議とカンファレンスで意見を出し合い、ご家族の訪問時に希望や意向を聞き取り、計画に反映している。又、日々の申し送りや、毎日の実施モニタリングで現状把握に努め新たなニーズ発見に努めている。	ケアプランのサービス内容項目の実施状況を記録表で日々チェック、確認し、その積み重ねを基に半年に1度担当職員を始め全職員に意見を求めて作成している。米とぎや茶碗洗い、洗濯物干し等々の役割を果たせるよう支援している。家族への介護計画の説明は面会時や電話を通しケアマネが行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の観察記録、毎日の業務日誌を通し、職員間の情報共有を図っている。ホワイトボードも利用し情報共有し、良いアイデアはすぐに実践できるよう、常に話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新たなニーズが生まれた場合は、柔軟に対応できるよう、職員の配置や業務の見直しを行い、利用者の実情に合わせた支援が実施できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者の外出の意向に出来る限り応じ、積極的に地域行事参加などに努め、地域の一員として生活を楽しめるよう支援している。近隣の保育園、幼稚園、学校との交流や、地域のカラオケ愛好会が毎月訪問している。		

令和 7 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人又はご家族の同意の元に主治医の所へ通院し、必要時スタッフが同行するなど主治医との関係を密に保つように努めている。	かかりつけ医の受診が継続されている。コロナ禍以降受診付き添いは職員が行っており、必要に応じて家族に同席してもらうこともある。院内のみの付き添いをしている家族もいる。診察内容に変更があればその都度家族に連絡している。週に1回看護師が利用者の健康状態を確認しており、24時間相談できる体制となっている。服薬は飲み込みまで確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が勤務し、週1回利用者様の状態観察を行っている。各利用者のかかりつけ医院の医師・看護師や、協力医療機関と連携を図り、適切な助言や受診が受けられるよう支援している。緊急時等、連絡し看護師の指示により、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、情報連携シートを活用し、医療相談室と連携を図りながら、情報交換や相談をし、円滑に行えるよう努めている。地域ケア会議出席により、普段から関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	施設内で出来る事を関係医療機関、職員で話し合い、ご家族にも伝えている。緊急時の対応をご家族と確認し合い、終末期に向けてどこまでできるかをキーワードに、対応できる範囲で実施している。	訪問診療がなくなったため看取りは行っていない。入居時に本人や家族にその旨説明している。吸痰や点滴などの医療行為が必要となったりシャワー浴も難しくなった時は、次の場所への住み替えも含め相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当や、初期対応の訓練、マニュアルの確認等を行い定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	緊急時対応の避難誘導訓練を定期的を実施し、近隣の住民へ避難誘導を依頼し、連携に努めている。水害についての細やかなマニュアルを作成し、速やかに避難できるよう努めている。	ハザードマップ上洪水浸水区域に位置しており、高齢者避難情報が出されると近くの小学校に避難している。布団や食料品などを準備しての避難となっている。火災避難訓練は年2回行っているが、夜間想定訓練は日中に実施している。近所の方には外に出た利用者の誘導をお願いすることになっている。	車椅子利用の方や手引き歩行の利用者もあり、夜間時の避難は困難が予想されます。薄暮時に実際に外に避難し、近所の方に避難場所まで誘導をお願いする訓練を行う中で、気づきや課題を明らかとし検討を重ねて行くことが期待されます。職員の招集訓練の実施や備蓄品の定期的な確認も併せて望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の思いや行動を受け止め、否定することなく、寄り添って見守りするよう努めている。本人の誇りに思っている事を引き出し、支援するように努めている。	利用者の得意なこと出来ることを把握し、やりたいことを大切にして塗り絵、パズル、雑巾縫い、お米ときなどができるように声かけや見守り支援を行っている。お手伝いできる事柄を増やし、役割を持って生活できるような工夫が行われている。入浴や着替えの際には戸を閉めたり、夜間は居室のドアを閉めプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	傾聴し、思いを受け入れる姿勢を利用者に向け、利用者の希望や意見を制限しないような雰囲気作りを努めている。本人の思いや希望を実現できるよう努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴はご本人の希望時間に合わせ午前・午後 に実施している。買い物の希望にも、随時対応 している。利用者のペースに合わせた支援に努 めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援している。	外出時はスタッフが一緒に服を選び、楽しく外出 出来るようし支援している。美容室はホームへ訪 問してもらい、3か月に1回程度のサイクルでカッ トしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員 と一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節の食材を使い、季節感のある食事を提供し ている。調理、食事の盛り付けや、茶碗拭き、茶 碗洗いなど手伝ってもらっている。お団子やホッ トケーキ作りなども一緒にしている。	地元の食材を食べていただけるように支援して おり、職員はバランスの良い献立を考え調理して いる。食材の皮むきや刻み、米とぎや食器、テー ブル拭きなどは、利用者が一緒に行っている。近 所の産直から差し入れがあり、地元産と告げると 喜んで食べる様子が見受けられる。柿や栗を取 穫し、干し柿や栗ご飯も利用者とともに作ってい る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量を個別に記録しチェックし、栄養 状態、水分量が十分に摂取できるよう把握し提 供している。嚥下困難の方にはミキサー食にトロ ミ剤を使用し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に 応じた口腔ケアをしている。	洗面所へ誘導し、歯磨きうがいをしている。夕食 後は入れ歯を預かり薬剤を使用している。困難 な方はスポンジや歯磨きティッシュ等を利用し口 腔ケアを実施する。		

令和 7 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録票をもとに、排泄誘導の間隔を把握し定期的に促しや交換を実施している。認知により排便のふき取り介助が必要な方にも、自尊心を傷つけないよう注意しながら実施している。見守り確認し、必要に応じ、尿取りパット交換を促している。	利用者全員がリハビリパンツとパットを使用し、日中はトイレでの排泄ができています。夜間にポータブルトイレを使用する方もおり、職員に合図をしたりセンサーを活用して職員の手を借りている。排泄チェック表を活用した誘導がさりげなく行われ、失禁時にはトイレから浴室にそっと移動しシャワー浴も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分チェック表で摂水量を把握し、少ない利用者には促しを実施している。毎朝の体操を実施し運動不足の解消、毎昼ヨーグルトを摂取している。個別に歩行運動等、便秘解消に取り組んでいる。随時処方された下剤も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	週2回入浴の機会を確保している。本人の希望で時間や日程をずらし、利用者のペースで入浴できるように支援している。入浴剤の使用や季節にあった(ゆず湯、菖蒲湯等)で入浴を楽しんでいただいている。便失禁ではシャワー浴を随時実施する。	日曜日以外の午前中が入浴の時間となっている。着替えや洗身などの自分でできることはやっていただき、できないところのみ職員が手伝うようにしている。職員と1対1での入浴は昔の話などで盛り上がる。入浴を嫌がる方には声のかけ方を工夫し入っていただいている。トイレと浴室がドア1枚でつながっており、機能性良く活用されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活にメリハリを持たせるために、大まかな施設の生活時間は定めてあるが、起床時間や朝食の時間は個々の生活習慣に合わせて柔軟に対応できるよう、配慮している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ホームとよまね2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別ファイルに薬の内容を添付し、服用時にスタッフが手渡して服薬確認を努めている。処方が変わった場合は、日誌にて周知し、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活の中から役割を見つけ出し実践している。個々の得意なことや、心身の状況によって差はあるものの、利用者それぞれの役割が決まってきた。役割をこなすことで充実感を得ている。ボランティアによる歌や踊り、園児訪問を楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的な買い物や、ドライブの他に、季節の行事として外食ドライブを実施している。地域で行われる行事への参加も行い、施設周辺の散歩も自由に行えるよう、支援している。	日曜日に開かれる近くのおでんせ市に出かけてお団子などのおやつを買ってきている。川沿いで栗拾いしたり、事業所周辺を散歩することもある。こども園の行事にでかけたり、花見や紅葉狩り、来港する豪華客船の見学に町外までのドライブを楽しんでいる。帰りに道の駅に立ち寄ってソフトクリームを食べることを楽しみとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の能力に応じて必要に応じて支援して。施設の方針で、基本的に現金は持たないが、ご本人・ご家族の希望に応じて買い物支援を行い、お預かりしているお金を渡し、自由に使えるなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者が、電話を希望するときは、ご家族了承のうえで電話の取次ぎをしている。又、荷物等が送られたときは、ご家族へ電話連絡をするようにしている。		

令和 7 年度

事業所名 : ホームとよまね2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天窓を利用し、施設に自然光が入るよう工夫している。又、季節を感じられるような掲示物や、季節の花を置くなどし、落ち着いた雰囲気作りに努めている。冬には加湿器を利用し、風邪の予防ができるよう努めている。	南向きのホールは広く、そこで体操やゲームをしたり、日本舞踊やカラオケなどのボランティアの活動場所としても使われている。キッチンの前には食卓が4台配置され、食事のほか塗り絵、裁縫等の作業の場となっている。廊下は長く、夕方には掛け声をしながら歩く数名の利用者の姿が見られる。事業所の至る所に利用者の貼り絵や塗り絵作品、こども園からいただいた写真、毎年作成している十二支の貼り絵などが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の席順は気のあった利用者同士を近くに配置している。共有スペースでは選んで座れる空間を設けると共に、利用者が自由にくつろげるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できる限り自宅で使っていた、馴染みの物を持って来てもらい、自分の部屋と認識でき、安心できる居室となるよう、心掛けている。行事の写真や作った工作なども掲示している。	居室にはベッド、棚、パネルヒーターが備え付けられており、日当たりが良く暖かできちんと整えられている。家族の写真や手作りの作品を飾ったり、ポトスなどの植物を育てている方やテレビ、人形、仏壇等を持ち込んでいる方もいる。季節に適した衣類のみがそばに置かれ、使わないものは別の場所に保管されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	段差がない作りで自由に移動できると共に、居室とトイレドアの色を変えて認識しやすくしている。転倒の危険なく、安全に自立生活が送れるよう努めている。		